



2017年(平成29年)
12月18日
第6号
発行所
〒632-0018
奈良県天理市別所町80-1
天理医療大学内
天理医学技術学校同窓会事務局



天理医学技術学校同窓会
電話0743-63-7811
www.teniko-dousoukai.jp

天理医学技術学校同窓会総会・懇親会を終えて

5年に1度の同窓会総会と懇親会は、平成29年(2017)3月25日(土)ウエルカムハウスコトブキ(天理市)において開催致しました。今回は50周年という仕切りの年にあたりますが、その前に天理医学技術学校閉校式が行われたこと等もあり、予想を下回る出席者となつてしまいました。勤務等で出席できなかった会員のために、ご報告させて頂きます。

当日は同窓会員91名と会友(天理医療大学卒業生)2名の出席者があり、総会、講演



市村 輝義 同窓会長 挨拶



高橋 浩 元学校長よりご祝辞をいただく

会、懇親会が午前10時から午後2時頃まで、和気あいあいの中で行われました。

総会では小松方事務局長の開会の辞で始まり、市村輝義同窓会長からの挨拶があり、高橋浩元学校長から来賓のご祝辞をいただき、5年間の事業報告、決算報告、監査報告等が行われました。審議事項では、一部会則の変更(第三条 本会本部を天理医学技術学校↓天理医療大学に変更。第五条 会友は天理医学技術学校在校生↓天理医療大学医療学部臨床検査学科卒業生とする。第六条 卒業時に4000円を納付して

新役員名簿

- 会長： 木寺 英明 (9期)
- 副会長： 北川 孝道 (21期)
- 事務局長： 中村 彰宏 (34期)
- 幹事： 大林 準 (15期)
- 幹事： 武田 侑子 (35期)
- 幹事： 清水 一茂 (42期)
- 会計： 川邊 美智子 (40期)
- 監査： 倉村 あいみ (39期)

永久会員とする↓削除となりました。)役員改選(別に記載)が行われ、総会を閉会しました。

その後、同窓会員である中島康仁さん(13期卒業生)による講演が行われました。中島さんは本校卒業後、松下記念病院に就職され、定年を前に早期退職されて、JICAのシニアボランティアとしてサモア独立国の国立病院臨床検査室での体験談として、「まだまだ夢の途中」〜サモアの臨床検査の発展を願つて〜というテーマで40分間お話し頂きました。講演内容は2ページに掲載しております。1300名を超える同窓会員の中にはすばらしい業績を残された方や日本の臨床検査部門を牽引されている方もおられる中で、中島さんが講演者に選ばれた理由には2つあります。1つは日本だけでなく世界に目を向けたユニークで貴重な体験談が聞けることと、2つ目は臨床化学一級試験合格だけに満足することなく、語学力をつけ大阪大学保健学博士を取得さ



懇親会の様子

れた経歴の持ち主で、若い同窓会員にはよい刺激となると期待したからです。

懇親会は森嶋良一幹事の司会で進行され、松田信義先生のご挨拶と松尾収二先生の乾杯で開会し、それぞれに歓談が和やかに進み、途中で山中亨元臨床病理部技師長、喜多村昭子元天理医学技術学校教務主任の来賓挨拶を頂き、会員からは阿比留仁(16期卒)、嶋田昌司(21期卒)、小松方(23期卒)、茶木善成(医療大1期卒)、手嶋敏裕(22期卒)、最後に山本慶和(4期卒)の御挨拶を頂きました。いつまでもなごりはつきないのですが、最後に出席者全員で、記念撮影を行い、新会長の閉会の辞で、午後2時頃閉会となりました。

ご出席頂いた方々には厚く御礼申し上げます。皆様の益々のご発展をお祈り致します。(木寺英明)

まだまだ夢の途中〜サモアの臨床検査の発展を願って〜

JICA Senior Volunteer 第13期卒 中島康仁

現在、私は学生時代に何となく描いた夢を実現させるべくJICAのシニアボランティアとしてサモア独立国の国立病院の臨床検査室でお手伝いをさせて頂いています。

サモアは南太平洋にある広さ2935km²の島国で、人口は182000人、公用語はサモア語と英語、宗教は人口のほぼ100%がキリスト教を信仰する国です。人口の80.4%が肥満で、生活習慣病対策が課題となっています。経済は消費財の多くを輸入に頼るため慢性的な貿易赤字を抱え、開発途上国と評価される国ですが、フレンドリーな国民性で治安がよく、「最後の楽園」といわれるくらい美しい自然が残っています。

サモア国立病院はサモアの首都アピアにある200床の総合病院で2013年に中国資本で新築された病院です。検査室は細菌、血清、生化学、血液、輸血、病理の各部門があり、病理を除く部門がワンフロア化されています。尿検査は細菌検査で行い、生理検査は検査技師の業務範囲に含まれないことが日本の検査室とは違っています。検査機器は導入されているものの、臨床検査システムを導入するには至っていないため、分析機から打ち出された結果を検査室内のパソコン(エクセル)に入力することで記録とし、依頼書にホッチキスでとめるもしくは転記することで報告書としています。検査室の多くの技師は海外で教育を受け、分析機器・試薬等はニュージーランドからサポートを受けています。

JICAは私に対して、検査部門のマネージメント力を向上させることを目的とし、臨床検査部門マネージャーと協働して、以下を要請しています。

1. 国立病院臨床検査部門全体の業務改善に取り組む。
2. 各自が行っている通常業務の見直し、効率化に向けた改善策の提案
3. 臨床検査技師の技術能力向上に向けた助言(必要に応じてトレーニングプログラム等の立案・実施)
4. 検査室の機器の維持管理に向けた助言

ところが、現実は様々な課題にぶつかりJICAの要請を実施出来ずに、もどかしい日々を送っているのが現状です。お世辞にもサモアの臨床検査に貢献するなんて言えません。このようにまだまだ夢の扉を開けるには、時間がかかりそうですが、自分の可能性を信じて、もう少しだけ頑張りたいと思っています。

私の日々の生活の様子や検査室の情報は、実名は明かしていませんが拙速なブログ <http://yasussan.cocolog-nifty.com/blog/> fwzh2544@mb.in-foweb.ne.jpに叱咤激励のメールを頂ければ、有難く思います。

今回の同窓会を機に世界のどこかで皆様と一緒に仕事が出来れば、これ程の幸せはありません。そして世界のどこかで、皆様とお会い出来る日を楽しみにしています。



検査室の皆さん(2列目中央に中島さん)



サモアの正装で講演される中島さん



懇親会の様子



緒方富雄賞を受賞して

第32回緒方富雄賞を受賞させていただきました。受賞理由は「臨床微生物学領域、特に細菌感染症の迅速診断法の開発、ならびに抗菌薬感受性検査の報告方法にpharmacokinetics/pharmacodynamics理論を使用した検査システムを開発し、国内ではじめて臨床検査に導入し報告書として発表した。現在は質量分析(MALDI-TOF MS)を用いた感染症迅速診断および抗菌薬耐性菌の検出法の開発に従事している。」という内



天理医療大学医療学部

臨床検査学科 教授

第23期卒 小松方

容です。

本賞は、日本臨床検査同学院初代院長現理事長である緒方富雄先生が昭和60年(1985年)の日本臨床検査同学院設立十周年記念行事の一環として提唱し、制定された賞です。受賞選考の対象者は、臨床検査領域の技術を通じて医療の発展に貢献した、臨床検査技師あるいは衛生検査技師に贈呈とされています。

私、臨床検査技師となり、臨床検査室で

19年、大学専任教員で5年の経験を経て、これまでの活動をご評価いただきました。この24年間は臨床微生物学と共にありましたが、今後も臨床微生物検査に関わるスタッフの卒後教育にも日本臨床検査同学院や専門の学会に携わりながら務めていきたいと思っています。

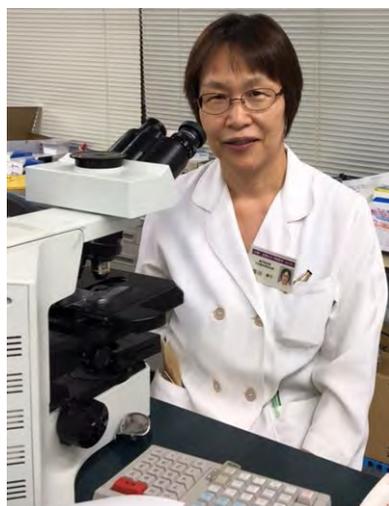
最後になりましたが、改めて緒方富雄賞受賞に関し、これまでにご指導ご鞭撻をいただき厚く御礼を申し上げます。

振り返れば形態検査を こんなに永くやっています

元天理よろづ相談所病院

臨床検査部主任

第10期卒 津田勝代



この私が定年まで働き通すことが出来たのは、皆様のおかげだと、この年になって思うことで、若い頃には考えもしませんでした。幸せ者だと感謝する次第です。それも形態検査を一途に39年間もやっていました。血液細胞に魅せられ、小さな世界を長時間見ていると飽きなかったことや、やっぱり疲れなかつたことが一番だったかもわかりません。

臨床病理部長の高橋先生から配属の発表があった時は「そうなんかー」と思っただけでしたが、今考えると、「よくぞ適材適所に配属下さり感謝致します」の気持ちで一杯です。学生時代から顕微鏡実習は好きでした。でも、絵心のないわたしは、細胞のスケッチは上手とはいえず、特徴を捉えるのが苦手でした。その点、他の人のスケッチを見ると個々に特徴が描かれていて、同じ細胞をスケッチ

しているのにどうして色と形が異なっているのか、不思議な驚きがありました。しかし、よくよく考えてみれば、自分とて同じ景色を前にしてもその時の心境やお天気によっても全く別のものに見えることがあるように、見た瞬間一番印象に残るものによって直感的に認識されるのが形態検査の面白いところなのです。他の検査をしている技師からはフアジーな検査と云われるのは致し方ありません。フアジーな検査だけに、難しい点があります。それは顕微鏡を通して細胞を観察する際、1個の細胞、あるいは多くの細胞の特徴を正確に表現するのが簡単ではないのです。過去の感性、知識、経験から、「この細胞かも知れない、いやいやあの細胞に似ているかこの細胞かも知れない」と思索と独り言を繰り返しながら私の目のバイアスがかかった報告書が作成されて来ました。しかし、こだわった点や納得できないことには安易に妥協しないこと、そして自分の目に見えることを素直に信じ、分からないものは分からないと伝えることでした。

ところが近年、血液疾患の診断は、細胞組織化学、モノクローナル抗体を利用した細胞表面マーカー検査、染色体検査、遺伝子検査の導入などによって、以前より明快となり、「科学的」になりました。判断困難な細胞に遭遇してもある程度細胞を証明できるようになりました。色々な情報を元に目を養うことができるようになったことで観察力が増し、今後の観察に活かせるようになりまし。こんな時代がもっと早く来て欲しかったと思つてなりません。後輩達は、もっとすごい

観察力をもって細胞を捉えて形態検査を進歩させてくれるのだろうかと思っています。
最後に、こんなに永く細胞を愛し仕事を続けることができたのは、先生方をはじめ先輩方の指導や後輩の助け、そんな環境を提供して下さった医療スタッフの方々、そして患者さんにもご指導いただいた育てていただきましてことを感謝いたします。

大学新卒業生から

天理よろづ相談所病院 臨床検査部

医療大第1期卒 谷村 圭亮

『臨床検査技師の展望』



検査機器が飛躍的に発達し、臨床検査技師の置かれている状況は厳しくなりつつあります。これまでは人手に頼って行っていた検査が自動化されたことでより早く検査結果を出すことができるようになった反面、臨床検査技師そのものの需要も少なくなりつつあることもまた事実であります。検体を機械にかけてデータをだすだけならば資格がなくても可能です。機械や環境

が整っていても正しく検査するのは人であることを忘れずに、自分自身で判断する能力を絶えず養成していく必要があります。そうして、対等な立場で医師以上の知識と技術を身につけ、期待以上の結果報告をすること、また、患者さんの立場に立ち、付加価値の高い情報提供をすること、患者さんを中心としたチーム医療に積極的に参加し、臨床検査技師の存在価値を見せることが重要であると思います。また、検査技師がアドバイザーとして検査の説明や気になる症状に合わせた検査の提案を行うことで、患者さんの検査に対する不安解消にもつながります。臨床検査部という枠にとらわれず、検査技師として新たな活躍の場を追求することで検査技師の知名度を上げることが、業務の需要拡大に繋がることでしょうか。
こうした個人の活動はもちろんです、臨床検査技師の病院内での地位を確固たるものにしようと、団体としても様々な活動が行われています。平成26年6月18日の臨床検査技師等に関する法律の一部を改正する法案が成立し、平成27年4月1日から施行され、臨床検査技師の業務である生理学的検査に嗅覚検査及び味覚検査が追加されました。今回の業務拡大により、看護支援のみならず医師の診療補助や患者の待ち時間短縮などに繋がるのが期待されます。インフルエンザに罹患した患者の動線を極力制限し長時間院内に待機させず、できる限り早く帰宅させることによって院内感染防止対策にも貢献でき、患者と病院双方にメリットを生み出す結果になると思われれます。
臨床検査技師の需要が減ってきている現

状を打破できるのは個人の絶え間ない努力です。ハイレベルな臨床検査技師が現在の臨床には求められています。後に出てくる後輩たちのためにも、私たちが率先して需要を作っていかなければなりません。

天理よろづ相談所病院 臨床検査部

臨床工学技士

医療大第1期卒 和泉 大輝

『天理魂』



天理医学技術学校同窓生の皆様、こんにちは。天理医療大学臨床検査学科、1期生の和泉大輝です。現在は天理医療大学同窓会事務局長という立場を頂きつつ、天理よろづ相談所病院で臨床工学技士として働かせていただいております。この度は会報誌にスペースを頂きまして、誠にありがとうございます。拙筆ではありますが、天理医療大学について少しでも知っていただければと思い書かせていただきました。

『天理医療大学に受け継がれた伝統について』

天理医療大学臨床検査学科では、“Team For AS”という学科会があります。この学科会は医学技術学校の先輩の背中を見て創設しました。自分たち1期生が1回生の時、医学

技術学校の先輩方が企画してくださったバレーボール交流会?がありました。

自分たちが上級生となり、先輩たちと同じような交流の場を作れたらと思いい、創設したのがこの学科会であります。現在では交流会だけでなく、医学技術学校で作成しておられた、プラスコ製作等も継続させてもらっています。また、国家試験当日の朝の駅前での応援・円陣も先輩方がされていたことを見よう見まねで毎年させて頂いております。

『天理医療大学同窓会について』

天理医療大学同窓会は医学技術学校同窓会の会報誌「一手一」にならひまして、会報誌を作成しております。名前は「JSP」としました。“JSP”とは、天理医療大学の理念「人に尽くすことを自らの喜びとする」を卒業した後も常に忘れず実践し続ける仲間でありたいという想いがあり、「J:JOY(喜びとする)S:SERVE(尽くす事)P:PEOPLE(人)」という意味合いで名付けさせていただきました。

『天理医療大学生の就職活動について』

天理医療大学臨床検査学科では、今後とも毎年30名ほどが就職活動を行う予定です。看護学科の学生と違い、検査学科の学生は地元や各地方での勤務を希望する者も大勢おります。今後も医学技術学校同窓会の皆様のお力添えが必要不可欠と考えます。天理医療大学同窓会では力足らずな部分をお力添え頂けたら幸いです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

天理医療大学同窓会は、今後の天理の医療を、そして日本の医療を創っていくという熱い想いをもって、一に勢いで邁進して参りたいと思っております。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

同窓会新役員紹介



同窓会長

木寺 英明 (第9期生)

天理医療大学、関西医療大学等 非常勤講師
天理医学技術学校 教務主任

げます。

さて、現在同窓会が抱えている問題として、天理医学技術学校同窓会と天理看護学院同窓会と天理医療大学同窓会をどのように取りまとめ運営していけばよいかということです。この3つの会と天理医療大学関係者(理事長並びに事務関係者)との間で話し合いが行われ規定を定めて、未永く運営していくことが望まれています。この時期を外してしまえば後々問題が生じてくることも予想され、できるだけ早い時期に解決策を見つけて出し、3つの会を一つにまとめた同窓会の開設を望んでいます。幸いにもまず、天理看護学院同窓会がこの主旨に賛同して頂き、次いで天理医療大学の奥村理事長にも3校同窓会の現状と今後の方針を説明させていただき、その名称を「学校法人天理よろづ相談所学園同窓会」にしたいとお伝えさせて頂いた時の返事として、「了解しました」というお言葉を頂くことができました。会員の皆様にお伝えできるのは、今の段階ではここまでですが、今後、設立準備委員会を立ち上げ、具体的な内容について詰めていきたいと思っております。

平成29年3月25日の天理医学技術学校同窓会総会において、同窓会長として承認されました。平成24年度から平成28年度の5年間は市村輝義会長のもと、副会長として同窓会の運営に関わってまいりましたが、我々の母校が閉校となり、天理医療大学に臨床検査技師育成が継承されていた激動の5年間でした。

このような状況の中で、私が同窓会長を引き受けようと決心いたしましたのは、天理医学技術学校を卒業できたお蔭で、臨床検査技師という資格を得ることができ、その上定年退職するまで教員として、臨床検査技師の育成に関われたことを誇りに思い、やりがいを感じたからであり、そのお礼がしたいという気持ちの現れからです。立派な諸先輩方が多くおられる中で、誠に僥倖ではありますが、今後5年間同窓会長として頑張る所存でおります。何卒、今後とも同窓会にご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、同窓会事業としては、前役員が努力された、同窓会会報「一手一つ」を年1回の割合で継続発行していきたいと考えております。その内容として、同窓会会員の著明な業績を発信していきたいと考えておりますので、是非多くの方々から推薦や業績の報告をお待ちしております。ここで皆様を知って頂きたいことがあります。印刷等の費用は多くないのですが、1000人を超える同窓生に郵送する送料が大きな負担となっております。今のままでは新しく同窓会に入会する人がいけませんので、収入がない状態であることを会員の皆様方にご理解いただきたいと思います。ですので、今後の運営は会報郵送時にお願する寄付金が、今後の運営費であることをご理解下さい。

今年3月の同窓会総会への出席者が予想よりかなり少なかったことも重なり、同窓会が抱える問題は少なくないのが現状ですが、役員の方を中心に智恵を出し合って頑張る所存でおります。重ねて、今後の同窓会活動に会員皆様方のご理解とご支援をただけ下さすよう、よろしくお願い申し上げます。

追伸

総会において、会報の紙が上質すぎるとのご指摘を頂きましたが、紙の質を下げてでも値段はほとんど変わらなかったため、今まで通りとしました。



副会長

北川 孝道 (第21期生)
天理よろづ相談所病院
臨床検査部 副技師長

この度、副会長をさせていただくことになりました。天理よろづ相談所病院臨床検査部の北川です。天理医学技術学校が廃校となり、そして天理医療大学2期生も今年卒業を迎えました。同窓会のあり方を考える大事な時期に役員を任せられ重大な責任を感じています。

現在、天理医療大学の5階講堂には「一手一つ」と書かれた額縁が掲げられています。これは、天理看護学院・天理医学技術学校新校舎竣工式で三代真柱様より贈られたお言葉です。私は、ある書家と一緒に新校舎の見学をした際、その方は「一手一つ」の書をしばらく眺めておられました。そして、私に「一手一つの「一」にすごい力強さを感じる」と話してくれました。私はその時、天理看護学院・天理医学技術学校は一つになる一つであることを、真柱様はきつと強く望まれていると確信しました。

そして15年後、天理よろづ相談所学園が設立され天理医療大学が開設されました。天理医療大学・天理看護学院・天理医学技術学校の同窓会も「一手一つ」となり活動・親睦を深めることが大切であると感じています。木寺会長、そして役員の方と力を合わせ、天理医療大学同窓会、看護学院同窓会役員の方々とも意見交換を交え、同窓会が1つになり、そして第1回天理よろづ相談所学園同窓会(仮)総会が盛大に行われることを願って頑張っていきたいと思っております。



事務局長
中村 彰宏(第34期生)
天理医療大学 医療学部

今年度より小松方前事務局長(23期生)から引き継ぎまして事務局長として着任しました中村彰宏と申します。私は天理医学技術学校を卒業後(34期生)、天理よろづ相談所病院臨床検査部に14年間在籍し、その後今年4月に天理医療大学の教員として着任しました。現在、大学では主に微生物検査学、医動物学、尿一般検査学を担当しています。天理医学技術学校は平成26年3月に閉校しましたが、学生時代に担任であった木寺会長の指導のもと、天理医学技術学校同窓会をさらに盛り上げて参りますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。



幹事
大林 準(第15期生)
天理よろづ相談所 医学研究所

このたび、天理医学技術学校同窓会役員(幹事)をさせて頂いたことになりました、天理よろづ相談所医学研究所の大林準(15

期生)と申します。

医学技術学校時代は、私の人生の中で、一番遊んで、一番勉強した(ラスト半年間限定)時代でした。そして私にとつての「一番貴重で大切な3年間を過ごせたと思っています。」

また、卒業してからは、偉大な先輩方のご活躍に、「天理スピリッツはこれだ!」と教えられ、過ごしてまいりました。私の感じる天理スピリッツのひとつに、「やるときゃやる!」というものがあるのではないかと思っています。もちろん、そのための日頃の準備も重要になります。私自身はまだまだ準備段階ですが、少しでも先輩方に近づきたいと思う日々です。

天理医療大学が開校したこの時期に同窓会役員をさせて頂いた、ひとつの役目として、天理スピリッツを卒業生の皆様や次世代の若者に報告・伝達すること、があると感じております。どこまで伝えられるかわかりませんが、精一杯務めさせて頂きたいと思っております。

どうかよろしくお願い申し上げます。



幹事
武田 侑子(第34期生)
奈良県立医科大学附属病院
中央臨床検査部

この度、同窓会役員に就任しました。35期生の武田侑子です。主に会報を担当させて頂きたく思います。不慣れなことばかりですが、同窓会発展のためにお役に立てるよう頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。



幹事
清水 一茂(第42期生、専攻科11期生)
天理よろづ相談所病院
臨床工学技士

同窓会幹事を担当させて頂きたく思います。天理よろづ相談所病院内の清水一茂と申します。仕事の内容としましては、主に『一手一つ』の編集をさせて頂きたく思います。学生の頃から今までお世話になった方々と共に同窓会を運営出来ることは感慨深いものがあります。今の私を育ててくれた天理に恩返しできればと思います。同窓会役員の中で1番年下の未熟者であります。周りの足を引っ張らぬよう精一杯やらせていただきます。よろしくお願いいたします。



会計
川邊 美智子(第40期生)
元 天理医療大学 医療学部 助手

昨年度まで天理医療大学に助手として在籍しておりました川邊です。現在は退職し、検査や教育の現場からは離れておりますが、同窓会活動に関わる機会を頂き感謝しています。子供が小さく、役員会議などは代理として川邊晴樹くん(天理よろづ相談所病院)をお願いしています。ご迷惑をおかけすることもありますが、少しでも先輩方や同窓会のお役に立てるよう頑張ります。よろしく申し上げます。



監査
倉村 あい美(第39期生)
天理よろづ相談所病院
臨床検査部

会計監査をつとめさせて頂くことになりました。任期の始まる直前の3月より産休・育休に入らせて頂いており、現在は同じく同窓会の主人が代理で役員会に出席している状態です。木寺会長をはじめ新役員の皆様にはご迷惑をおかけしますと同時に、ご理解・ご協力いただき大変感謝しております。私が天理医学技術学校を卒業してから10年目を迎え、振り返ればたくさんの先輩たちがいることに驚きを感じつつ、前を向けば数え切れないほどの先輩方の背中があるわけで、改めて歴史の深さを痛感します。今後の同窓会の発展のため、微力ながら頑張らせて頂きたいと思っております!よろしく申し上げます!

平成28年度同窓会事業報告・会計報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日までの活動報告をさせていただきます。

一、役員会議開催

次の通り、計3回開催した。

○第1回役員会

会期：平成28年10月7日(金)

18時～19時15分

場所：天理医療大学 同窓会室

出席：市村、木寺、小松、長岡、

倉村(益田監査代理)、

川邊(福田会計代理)

欠席：森嶋

会議内容

①「一手一つ」第5号の発送について

②メールサーバーの契約内容の変更報告

③同窓会会則変更について

○第2回役員会

会期：平成28年12月17日(土)

15時～16時

場所：天理医療大学 同窓会室

出席：市村、木寺、森嶋、長岡、

倉村、川邊、茶木(大学1期生)

欠席：小松

会議内容

①三同窓会合併について

②同窓会会則変更について

③総会開催について

○第3回役員会

会期：平成29年3月4日(土)

15時～16時50分

場所：天理医療大学 研究棟305号室

出席：市村、木寺、小松、長岡

欠席：森嶋、倉村、川邊

平成28年度会計報告

収入の部

前年度繰越金	2,438,598
H28同窓会総会参加費	736,000
H28同窓会総会御祝	20,000
寄付	53,000
利息	18
合計	3,247,616

支出の部

HP管理料	46,637
「一手一つ」印刷代	21,394
「一手一つ」原稿代	2,162
「一手一つ」封筒代	108,561
「一手一つ」郵送代	113,646
H28同窓会総会 案内状郵送代	106,429
H28同窓会総会 会場代	686,062
H28同窓会総会 欠席者の会費返納	17,066
天理医療大学学位授与式お花代	5,400
次年度繰越金	2,140,259
合計	3,247,616

会議内容

①総会の案内発送・参加状況報告

②役員改選について

③同窓会会則変更について

④総会開催について

二、「一手一つ」第5号発行

市村会長による天理医学技術学校同窓会の今後についての報告、および同窓生7名の近況報告を掲載した。平成28年11月にクロネコDM便より発送を完了した。

三、平成28年度会計報告

平成28年度は左記表通りの収支となった。

同窓会ウェブサイト・Facebookのお知らせ

下記QRコードを専用アプリで読み取ると各ページへアクセスすることができます。同窓会ウェブサイトには会長挨拶、役員紹介、同窓会誌「一手一つ」に関する情報等を掲載しております。Facebookページには、同窓会役員の近況報告や、会長からのメッセージ等を投稿していきます。

お問い合わせフォーム

ウェブサイトの中间お問い合わせフォームを設置しております。特に会員の住所および氏名の変更などはこのフォームを使用していただければ大変助かります。ご協力をお願いいたします。



同窓会Facebook QRコード



同窓会ウェブサイト QRコード

*アプリの種類によっては読み込めない場合がございますので、ご了承ください

編集後記

同窓会新役員となって初めての「一手一つ」発行となりました。編集に関して右も左もわからずに出発しましたが、なんとかこまめに形にすることができました。年に一度の発行にはありますが、会員の皆様が見たいと思えます。今後ともよろしくお願いたします。

同窓会幹事(第42期卒) 清水一茂